



(3)活動の成果

安曇野市での「松大生と学ぶ親子プログラミング教室」は新型コロナウイルス感染対策として、例年より人数

を制限したが、4日間で延べ80組の親子が参加し、Scratchを用いたプログラム作成の学習を行った。講座終了後のアンケートによれば、参加した児童の多くが、プログラミング教室に満足していた。

また、オリジナルの教材を作成して子供たちに教えることで、本学学生のプログラミングに対する理解も大いに深まった。

(4)共同活動者

小林俊一(総合経営学部)、矢野口 聡(松商短期大学部経営情報学科)

(5)成果の公表(活動発表・論文執筆等)

本学ホームページ新着情報に随時報告・掲載した。

3. 学生カフェプロジェクト

(1)活動計画

学生カフェプロジェクトは、2015年に本学と上土町の街づくり協議会が連携して実施している学生が参画したまちづくり事業である。コミュニティの拠点である「カフェあげつち」を中心として地域の関係者と学生が協働してまちづくりに取り組む事業で、2019年度は11月末までに30回の学生カフェを実施している。観光ホスピタリティ学科の4つの専門研究・卒業研究の活動として26回に亘りカフェを拠点にまちづくりのイベントや活動を行った。さらに2018年度から始まった高大連携を支援する学生組織「ゆにまる」による学生カフェとして、2019年度は、デパートサミット事業のプロモーションや「デパートゆにまる」会場での出前カフェに向けた研修を目的とした学生カフェ、山賊焼きの普及をテーマにしたカフェなど合計で4回開催した。

以上に加えて2019年度からは、ゆにまるが支援した高大連携事業として南安曇農業高校の生徒による学生カフェを女鳥羽川の草刈り(春・秋)および市民祭にあわせて3回実施した。大学生と地域住民の連携が高校生まで拡大し、多年代によるまちづくりの取り組みとなっている。

以上の実績を踏まえて2020年度においても学生カ

総合経営学部観光ホスピタリティ学科 白戸 洋

フェの取り組みを実施する。本年度は、特に高大連携に力を注ぎ、高校生と大学生が連携した活動として展開する予定である。また、新たな動きとして地域課題研究の履修者を中心とした本学学生が、他大学や高校生を巻き込んだ新たな地域づくりの学習・実践を目指す活動を開始しており学生カフェへの参加はより拡がることが期待される。

一方で高齢化等を背景に地域の居場所や交流拠点としてのカフェの役割に注目が集まっており、その意味で本事業は地域のモデル事業とも位置づけられる。したがって、2020年度は、同様のニーズがある他地区への波及を促すため、試験的に駅西地区のいばらん亭等でも事業化を図りたい。

本事業は毎年の積み重ねによってより地域の受容と理解が進み、地域住民を巻き込んだより幅広いまちづくり活動に発展することが期待されるとともに、本学の象徴的な地域連携活動として進化することが期待される。なお上土における活動は、本学の広報媒体はもとより外部の様々な媒体によって情報の発信がなされている。

(2)活動内容

2020年度はコロナ禍によって活動の制約があった

ものの、秋以降については地域における学生の活動も可能になったことから以下の事業を実施することができた。

1) 高校と地域の連携活動

① 南安曇農業高校・高校生実習カフェ

南安曇農業高校との高大連携事業の一環としてカフェあげつちにおいて3回に亘り、販売実習を行った。販売実習はコロナ感染防止のためにカフェ前の広場において実施し、高校生が生産した農産物や加工品を販売した。本来は松本大学の学生も参加して販売方法等について大学生が高校生にアドバイス等を行うことが計画されていたが、コロナ感染予防の観点から大学生の参加は見送られたため、カフェあげつちのスタッフおよび大学教員による指導が行われた。また予定された販売実習をすべて実施できなかったことから毎週土曜日に高校教員が商品を持参しカフェでの委託販売を実施した。

② 飯田OIDE長姫高校・松本フィールドワーク

松本大学との協定に基づき取り組まれている飯田OIDE長姫高校の「地域人教育」の一環として毎年実施されている1年生を対象とした「松本フィールドワーク」を10月21日実施した。例年5月に実施していたが、コロナ禍により10月の実施となった。上土を含めたお城下町地区(上土・縄手・緑町)において感染予防を徹底する形で実施した。本来なら通行人や地域住民にインタビューを行う方法で実施されていたが、2020年度は対象範囲も限定し写真の撮影や限定したインタビュー(事前に了承を取った店舗に限る)を行った。また例年実施している当日の地域住民による講義やグループワークによるまとめと地域への発表については、それぞれ高校での事前学習やえびす講や地区公民館でのパネル発表にて代替した。



飯田OIDE長姫高校フィールドワーク

2) 白鳥写真館ディスプレイ

畑井ゼミの学生が白鳥写真館のショーケースのディスプレイを行うために、準備と打ち合わせをカフェにおいて2回実施した。コロナ禍の状況からそれ以外の活動は非接触の方法で実施したためカフェでの活動はそれ以外は行わなかった。



白鳥写真館ショーケースのディスプレイ

3) ミニコミ誌「あやめ」

コロナ禍において地域のコミュニケーションが不十分となり特に高齢者が孤立する状況になったことから、地域の情報を学生が取材しそれをミニコミ誌として編集し地域の情報を発信した。ミニコミ紙は「よい便り」という意味を込めて「あやめ」と名付けられ、6月から毎月2回合計で12回発行された。上土の住民や商店、施設を対象とした取材を行い、その内容を記事にして発行するというもので、約350部を作成し、カフェあげつちや各店舗等で配布するとともに上土町会および上土商店街振興組合に全戸配布を行った。

当初は商店等の営業時間やコロナ対策などの情報が中心でA4判で1~2枚程度の内容であったが、地域住民からのアドバイスもあり、後半は上土に関わる人や商店、施設等の歴史や課題、経営者の思いなど詳しい取材を行い地域に情報として発信した。取材の対象は、平出酒店、カフェ想雲堂、居酒屋一歩、居酒屋やったる、入山辺野菜市、人力車、上土町防災委員会、上土劇場、ホテル花月、Sake Pub Matsumoto、ノセメガネ、アジアレストランなどである。年度の前半は取材や編集は主として遠隔で取材や打ち合わせを実施し、地域での活動が可能となったからは「カフェあげつち」において取材や打ち合わせを行った。



あやめ取材風景(松本ホテル花月)

また地域の要望もあり、担当した白戸ゼミによる「あやめ」を事例とした卒業研究の要約等も掲載した合本を製作した。

4) 上土に関する学習

観光ホスピタリティ学科の増尾ゼミ及び向井ゼミの学生による上土地域に関するフィールドワークや住民との懇談を3回(遠隔1回含む)実施した。その成果についてはえびす講においてパネルにとりまとめ、展示を行った。

なお活動計画で予定していた他地区における学生カフェモデル事業の展開については、コロナ禍により実施することができなかつたため今後の課題となっている。

(3) 活動の成果

コロナ禍によって地域住民の様々な活動が困難となる中で「カフェあげつち」は地域住民の居場所として大きな役割を果たした。地域外との交流が極端に減少する中で「カフェあげつち」を通じて松本大学学生や高校生などと地域の人々が交流や協働ができたという点では、例年と比べても大きな地域にとって大きな意義があったと評価できる。コロナ禍を乗り越えるために遠隔によるコミュニケーションに取り組んだことは、1年を通じた地域と大学の連携活動を可能とした。

また大学生や高校生が上土において活動ができたことは、コロナ禍で学生や高校生にとっては数少ない学びのフィールドが確保されたという点で教育の観点から大きな成果を得ることができた。

一方で、ディスプレイや「あやめ」によって地域住民が自らの地域に対して深い理解やこれまでのまちづくりに対して共感をもつことが促されたことは今後のまちづくりにとって極めて重要な意義を持つ。

例えば、カフェにおいて「あやめ」の内容について日常的な議論がなされ、まちづくりに地域住民が興味関心を深めることができた。また「あやめ」の取り組みに当たっては、地元から示唆された「若者や後継者の育成」と「女性のまちづくりへの参画」という地域の課題を踏まえ、これまでまちづくりに関わりが小さかった商店や地域住民、最近開業した店舗などを中心に取材を行ったことで地域の中での相互理解を促すことができた。その成果は、活動の成果発表においてこれまでにはない女性や若い世代の地域住民の参加や積極的な発言が行われたことにより明らかである。

「コロナ禍ゆえにできない」ではなく「コロナ禍だからできること」が重要であるという共通認識を地域住民も学生や外部の関係者が持つことができた点で、2020年度はこれまで以上の成果を上げることができたと評価される。



「畑井ゼミ・白戸ゼミ卒業研究発表会」

(4) 成果の公表(活動発表・論文執筆等)

- ・「あやめ」1号～12号 上土町全戸配布・上土の6店舗にて配布
- ・2021年2月26日「畑井ゼミ・白戸ゼミ卒業研究発表会」上土ふれあいホール・カフェ「あげつち」(遠隔配信)
- ・同合本「あやめ～2020年度版～」
- ・白戸ゼミナール「地域における情報発信の課題と可能性～発信媒体と魅力的な内容およびその効果について～」2021年3月31日